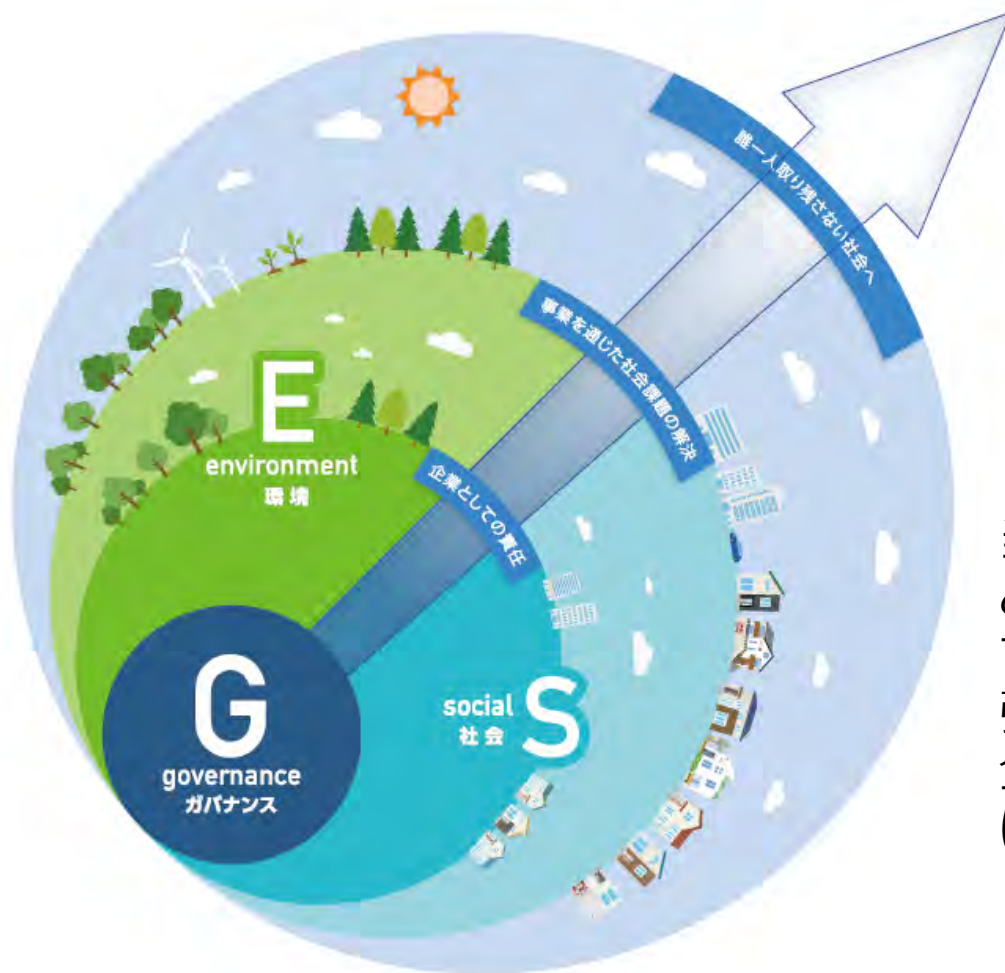


サステナビリティ経営

社会課題の解決と企業価値向上を両立させるために

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

■ 企業価値向上と持続可能な社会の実現に向けて



当社グループは「信頼と誠実」の精神のもと、様々な社会環境の変化に対し、これまで培ってきた事業インフラやノウハウなどの強み、経営資源を活かして、中長期的な企業価値向上と持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

重点課題(マテリアリティ)の特定

■ SDGSと当社の重点課題との関連性を整理

重点課題1 高齢化、人口減少時代の社会インフラの提供

- リスク**
- 高齢化に伴うニーズの変化への対応が遅れた場合の来店動機の低下 など
- 機会**
- 高齢化に対応した商品やネットをはじめとした便利なお買物環境・サービスの創出



重点課題2 商品や店舗を通じた安全・安心の提供

- リスク**
- 商品事故・店舗事故の発生や法令違反による信用の低下 など
- 機会**
- 徹底した安全・品質管理や健康配慮商品などお客様ニーズに即した新しい商品提供による販売機会の拡大 など



重点課題3 商品、原材料、エネルギーのムダのない利用

- リスク**
- 気候変動に伴う店舗・物流網への物理的損害 など
- 機会**
- 省エネや廃棄物削減、リサイクル、エネルギー供給源の見直しによるコスト削減 など



重点課題4 社内外の女性、若者、高齢者の活躍支援

- リスク**
- 労働力人口の減少による人材不足・人件費の高騰 など
- 機会**
- ダイバーシティ経営推進による競争力の強化・新規事業の開発と優秀な人材の獲得 など



重点課題5 お客様、お取引先を巻き込んだエシカルな社会づくりと資源の持続可能性向上

- リスク**
- サプライチェーン上の人権問題の発生による商品供給の停止や品質の劣化・社会的評価の低下 など
- 機会**
- 持続可能な原材料調達による競争力の拡大・エシカル消費に対応した商品・サービス提供による販売機会の拡大 など



当社では国際社会共通の目標として、2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）達成に事業を通じて貢献していくために、それぞれの目標と5つの重点課題の関連性を整理して、当社のサステナビリティの取り組みに組み込みました。特定した5つの重点課題に関わるリスクとチャンスを確認し、リスクの低減に努めるとともに、社会課題を解決する新たなビジネスの創出を通じて、持続可能な社会と企業の持続的成長を目指しています。

バリューチェーンにおける企業価値の向上

■ セブン&アイグループのバリューチェーン



セブン&アイグループは、グループ傘下の幅広い業態が連携し、お取引先と協働しながら、お客様のライフスタイルに寄り添った商品・サービスをお届けしています。誕生から10年が過ぎたグループ共通のプライベートブランド「セブンプレミアム」は、その成果の一つです。常にお客様一人ひとりのニーズに向き合うとともに、よりよい生活、よりよい社会のあり方を模索し、新しい価値の創造に挑戦し続けることが、私たちの使命です。

全ての商品包材を環境対応に

■商品の環境配慮で築く高品位な価値連鎖

セブン&アイグループは、国内で約21,800店舗を運営し、数多くの商品を取り扱っています。商品における環境配慮の実現は、多様なステークホルダーとともにCSVの実現に取り組む手段の一つです。

特に商品の包材は、商品の価値を高めるものである一方、資材やエネルギー、廃棄のコストに直結するため、高い目標を立て、環境負荷の低い包材への切り替えを進めています。



■「サラダ」長鮮度化の取り組み

低温・連続工程

- ①販売鮮度延長
- ②野菜品位向上
- ③製造コストダウン
- ④見た目の改善



入荷から製造までを
一貫して
4℃以下で管理

販売鮮度

従来(約1日半)⇒約2日半へ **+1日延長**

先行エリアでの販売実績

販売：約**2割増加** 廃棄ロス：約**2%改善**

※廃棄率は従来商品との差



野菜と副材を分けた
二段容器にトップ
シールタイプの蓋

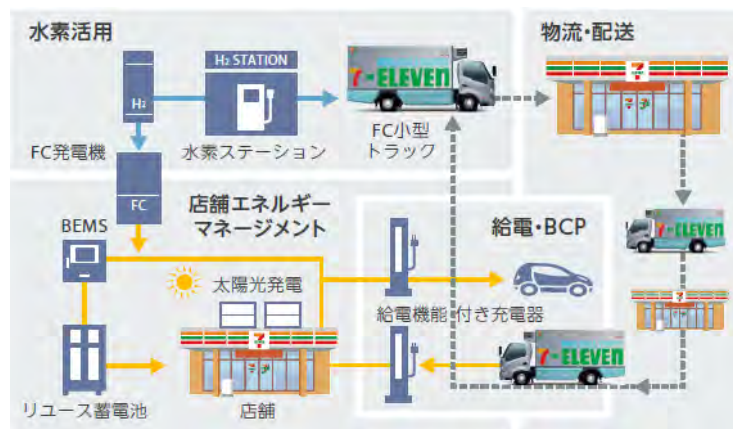


セブン-イレブン専用工場だからこそ実現した技術革新

2018年4月から順次展開エリアを拡大(上期7,000店、年内13,000店、来春19,000店へ)



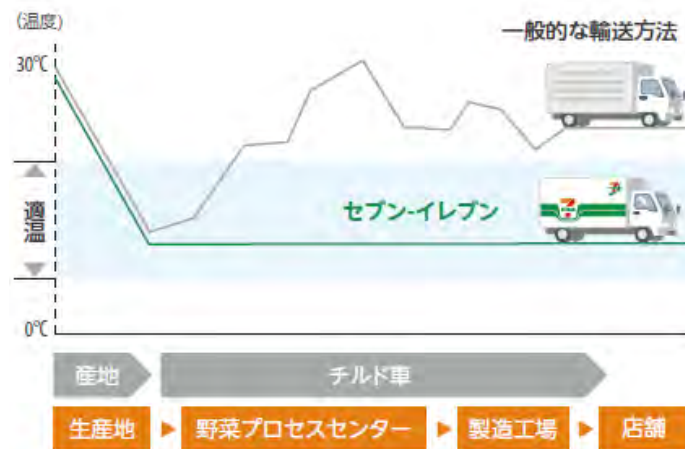
■ 効率化や環境対応を目指し最新の技術を活用



将来の低炭素・水素社会の実現に貢献するために、2017年8月より、トヨタ自動車（株）と共同で検討を開始しました。

今後、店舗向けの配送トラック（冷蔵・冷凍車）への燃料電池トラックの導入や、店舗での燃料電池発電機の設置を進めます。また、自動車用蓄電池を活用した定置型蓄電システムを店舗へ導入し、省エネ・CO2排出削減だけでなく、災害時の非常用電源としての活用も検討します。

■ 鮮度管理は畑から



セブン-イレブンでは、畑で収穫されたばかりの野菜を新鮮なまま輸送・加工するために「コールドチェーン（低温物流網）」を導入しています。収穫された野菜はその場で低温保管され、配送車、仕分けセンター、製造工場から店舗まで、一貫した温度管理のもとで配送されています。この仕組みによって高品質を維持し、新鮮な商品をお客様に店頭でお届けすることが可能となっています。

■ ニュースリリース発信

Denny's ファミール < 九都県市内デニーズ・ファミール >
食品ロス削減を促進するキャンペーン
「食べきりげんまん
スマイルフォトコンテスト」に参画致します

株式会社セブン&アイ・フードシステムズ（東京都千代田区二番町8-8）では、九都県市廃棄物問題検討委員会（注1）主催の「食べきりげんまんプロジェクト」に賛同し、九都県市内のデニーズ・ファミールが同プロジェクトに於いて実施する「食べきりげんまん スマイルフォトコンテスト」に、参画致します。

■ キャンペーン概要



九都県市廃棄物問題検討委員会が実施する、食品廃棄物及び食品ロス削減の普及啓発を図るためのキャンペーン事業「食べきりげんまんプロジェクト」。九都県市内のデニーズ・ファミールが参画する「食べきりげんまんスマイルフォトコンテスト」は、同プロジェクトのキャンペーンの一つです。店舗にてお食事いただき、残さず食べた「空の食器と笑顔」が一緒に納まった写真を応募し、入選者に賞品を贈呈致します。

■ 実施期間

2017年10月1日（日）～2017年10月31日（火）

■ 九都県市



■ 参画実績

2013年から5年連続で参加
2017年度は九都県市に出店している271店舗で実施
・デニーズ256店舗
・ファミール 15店舗

自治体と連携し、お客様を巻き込んだ発生抑制に貢献

■ 協定締結、ニュースリリース発信



平成30年4月19日
横浜市健康福祉局福祉保健課
横浜市社会福祉協議会
株式会社セブン・イレブン・ジャパン
同時発表

横浜市と横浜市社会福祉協議会、セブン-イレブン・ジャパン
の三者は商品寄贈に関する協定を締結しました

横浜市と横浜市社会福祉協議会、株式会社セブン・イレブン・ジャパン（以下セブン・イレブン）は、平成30年4月19日、社会福祉貢献活動の一環として、店舗の閉店や改装に伴う在庫商品を、セブン・イレブンから横浜市社会福祉協議会に寄贈する取組について協定を締結しました。（※）

横浜市社会福祉協議会は、寄贈された商品を、高齢者、障害者、子ども、生活困窮者等の支援を行っている団体・施設に配分し、地域福祉の推進を図っていきます。また、横浜市は、本取組のPRや配分先に関する情報提供などを行います。

※平成 24 年に、セブン・イレブンと横浜市は、地域活性化包括連携協定を締結し、連携して各種取組を実施しています。

1 協定について

協定の名称：『商品寄贈による社会福祉貢献活動連携協定』

協定締結日：平成30年4月19日（木）

協定締結式出席者：横浜市

横浜市社会福祉協議会

セブン・イレブン

田中 健康福祉局長

中村 常務理事

百瀬 京浜ゾーン ゾーンマネジャー

林 西神奈川ゾーン ゾーンマネジャー

2 三者の役割

横浜市：本取組のPRや、配分先に関する情報提供・収集

横浜市社会福祉協議会：寄贈された商品の管理・配分

セブン-イレブン：店舗閉店や改装時に商品を横浜市社会福祉協議会に寄贈

3 寄贈商品について

閉店・改装時に在庫となった加工食品や雑貨

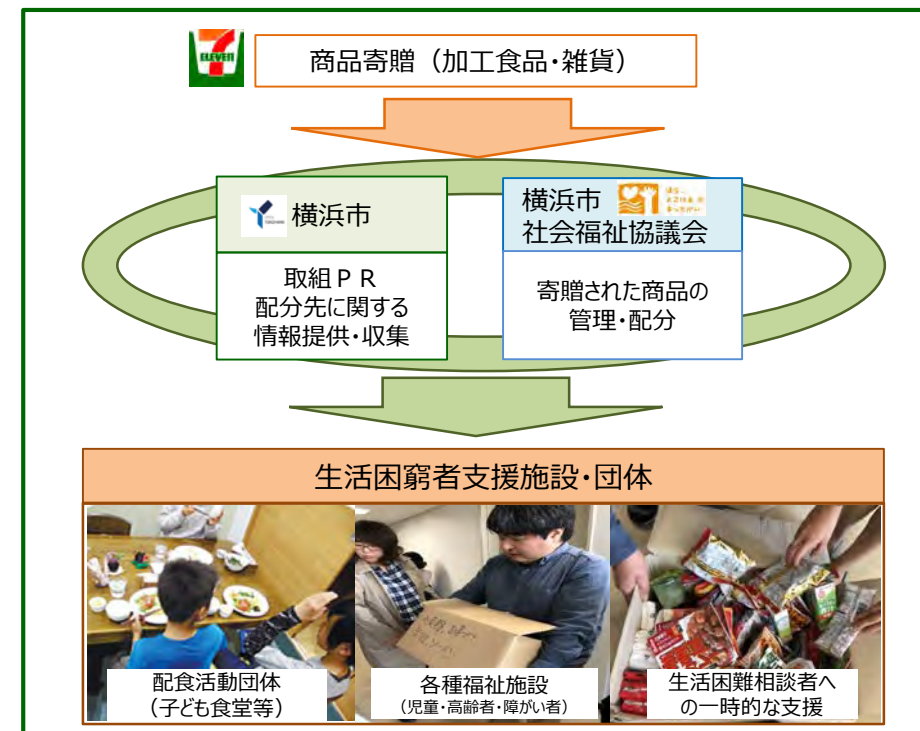
※対象外：酒・煙草等の免許品、おにぎり等の日配商品、アイスクリーム等の温度管理が必要な商品等

4 配分先

高齢者、障害者、子ども、生活困窮者等の支援を行っている団体・施設等



■商品寄贈スキーム



■寄贈実績：4月1日～7月31日

	食品	雜貨	箱数計
19店舖計	510	383	893

■ 今後：包括連携協定を前提に、各自治体・各社会福祉協議会と連携し拡大を図る

■ ニュースリリース発信

NEWS RELEASE

 **セブン&アイ HLDGS.**
株式会社 イトーヨーカ堂
2018年7月31日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

「全ての人に食べ物を」、『SDGs』に貢献

 **SECOND HARVEST** ×  **イトーヨーカドー**

セカンドハーベスト・ジャパン、株式会社日本アクセスとの協業

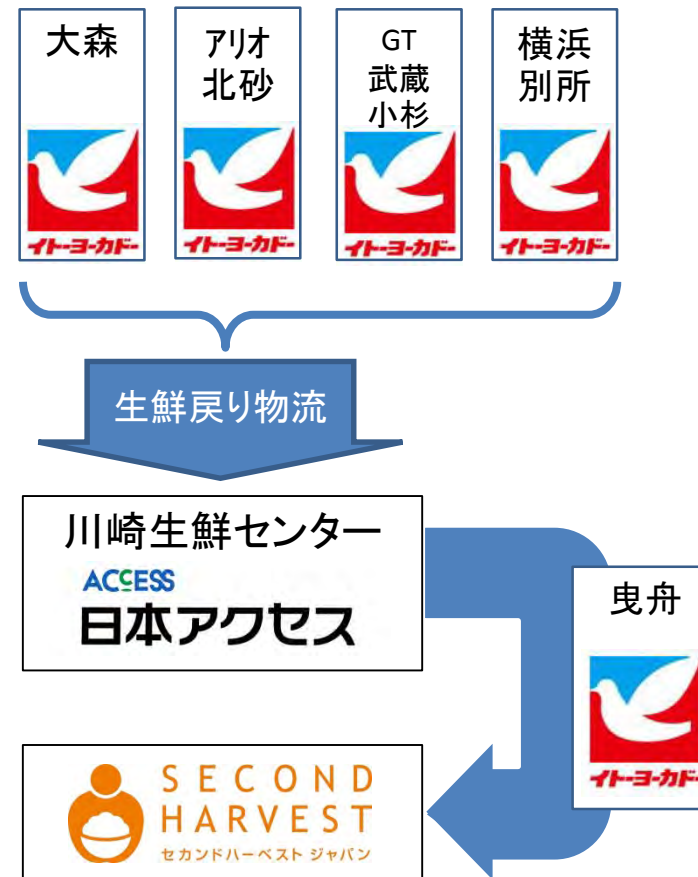
フードバンクへ食料品の寄贈を本格開始
～外部との協業により環境負荷低減の取り組みを推進～

<実施店舗>
東京都・神奈川県のイトーヨーカドー5店舗
(曳舟店、大森店、アリオ北砂店、グランツリー武蔵小杉店、横浜別所店)

<寄贈対象商品>
米、調味料、缶詰等の一般加工食品（酒・タバコを除く）パン、乳飲料、
麺類等の日配食品

<寄贈の流れ>
イトーヨーカドー各店舗への商品配送の物流便を活用して、寄贈商品を集約します。
寄贈商品の最終集約店舗からセカンドハーベスト・ジャパンの拠点への配送は、
株式会社日本アクセス様が自社の社会貢献活動の一環として担います。

■ 食料品寄贈フロー



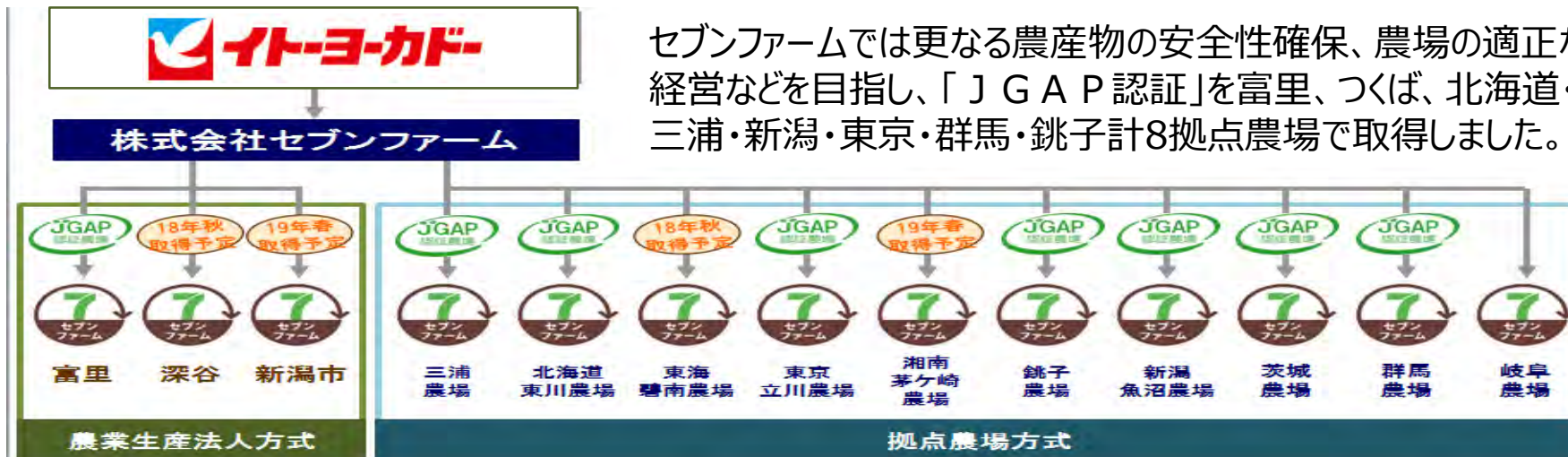
■ 寄贈実績：計2回 152kg
→年間 3.5tを見込む

■「セブンファーム」の環境循環型農業



セブンファームは店舗で発生した食品残渣を「廃棄物」ではなく「資源」として扱うという発想から、環境循環型農業として運営しています。
現在、日本全国に現在 13拠点、栽培面積は合計約 200ヘクタールになります。

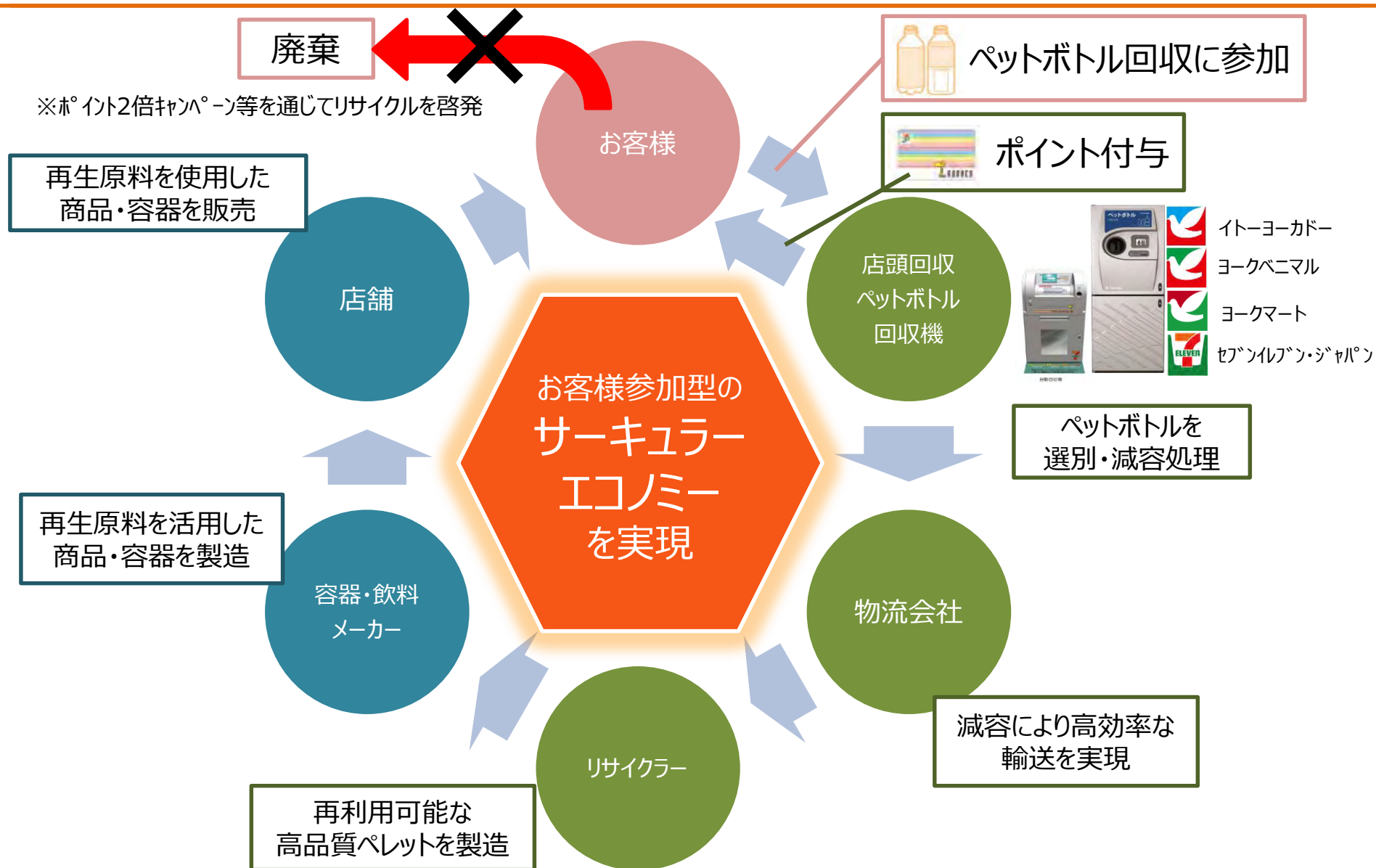
■「セブンファーム」の環境循環型農業



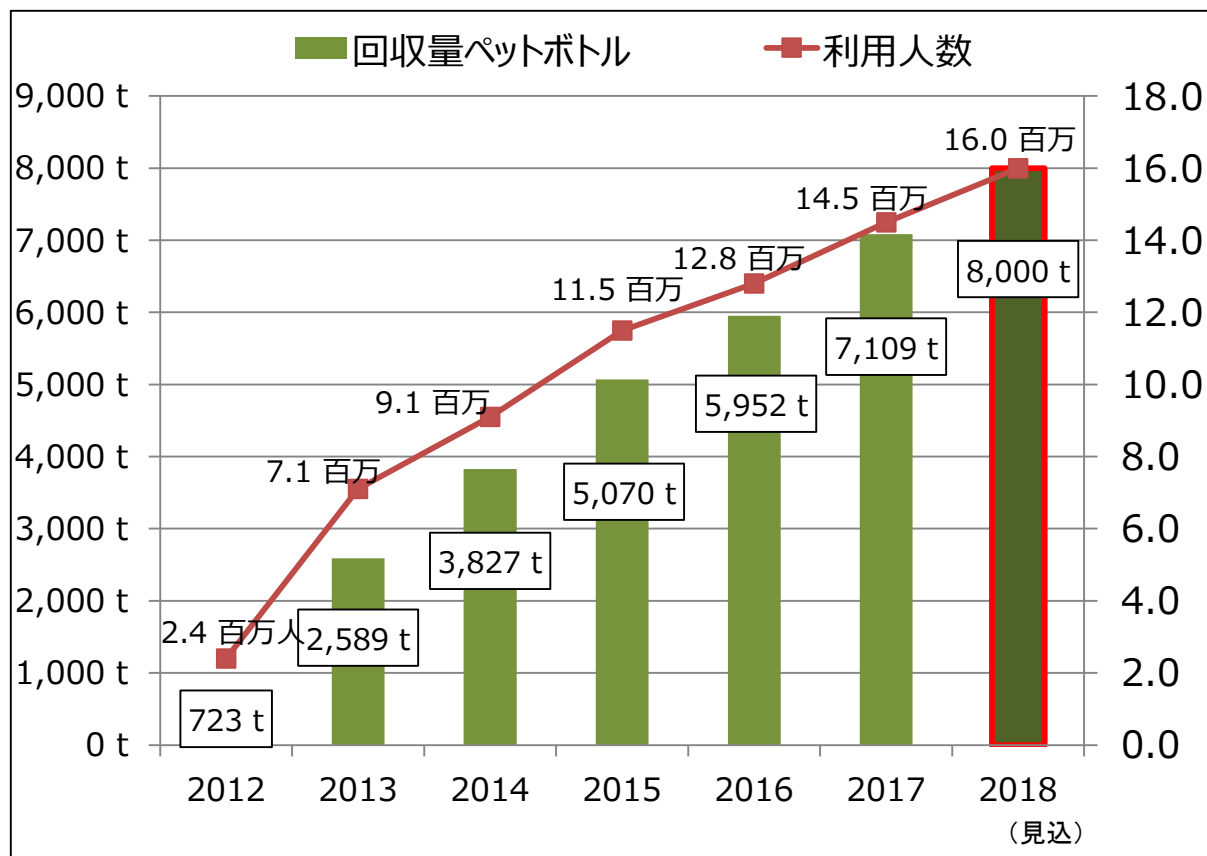
年	08年		09年		10年		12年		13年		14年		15年		16年		17年									
月	8月	9月	11月	12月	5月	7月	9月	10月	1月	4月	7月	10月	5月	7月	2月	3月	7月	10月	1月	8月	12月					
内容	・株式会社セブンファーム富里 設立	・富里にて第一回農業体験ツアーを実施	富里JGAP認証取得	・農業業界向け展示会「アグロイノベーション2009」で紹介	・展示会「エコプロダクツ2009」で取組紹介／種まき体験を実施	・富里にてエコプロ企画「収穫体験」を実施	・株式会社セブンファーム 設立	・株式会社セブンファームつくば 設立	・株式会社セブンファーム三浦 設立	・株式会社セブンファーム深谷 設立	・セブンファーム北海道 設立	・セブンファーム東海 設立	GAP普及大賞を受賞	・セブンファーム東京 設立	・セブンファーム新潟 設立	・セブンファーム湘南 設立	・セブンファーム銚子 設立	・食品産業優良企業賞 農水大臣賞を受賞	・セブンファーム新潟市 設立	三浦JGAP認証取得	・セブンファーム群馬 設立	・セブンファーム岐阜高山 設立	・新潟JGAP認証取得	・東京JGAP認証取得	・群馬JGAP認証取得	・銚子JGAP認証取得
■2012年7月 セブンファーム 顔が見える野菜。果物。 GAP普及大賞受賞！  																										

■2012年7月
セブンファーム
顔が見える野菜。果物。
GAP普及大賞受賞！





■ ペットボトル回収機によるペットボトル回収量及び利用人数



累計 5,740万人のお客様が回収に参加、25,244tを回収
→ 国内で100%リサイクル ※2018年2月現在

■ リサイクルハット材使用例



再生PET樹脂を製造 → 再商品化により

累計25,092 t のCO₂削減達成

＜ハット樹脂1kg製造あたりCO₂排出量＞
バーゲンハット樹脂 1.577kg - 再生ハット樹脂 0.583kg = 0.994kg (63%削減)

社是

私たちは、お客様に信頼される、誠実な企業でありたい
私たちは、取引先、株主、地域社会に信頼される、誠実な企業でありたい
私たちは、社員に信頼される、誠実な企業でありたい



今後もサステナビリティ(持続可能な社会)を目指して、本業を通じて
「社会課題」を「共有価値」に変えていくよう努力してまいります。